

# ハートランド平尾台株式会社

## I 法人の概要（平成 29 年 4 月 1 日現在）

- 1 所在地 北九州市小倉南区平尾台一丁目 1 番 1 号
- 2 設立年月日 平成 8 年 4 月 1 日
- 3 代表者 代表取締役 柏木 康彦
- 4 資本金 364,800 千円
- 5 北九州市の出資金 88,200 千円（出資の割合 24.2%）
- 6 役員員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	9 人	0 人	1 人	8 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	8 人	0 人	0 人	8 人
職 員	4 人	0 人	0 人	4 人

## II 平成 28 年度事業実績

### 1 事業の経過及び成果

#### (1) 経過

平成 28 年度は平尾台自然の郷においては、4 月の熊本地震の影響を受け「トレイルランニング」が中止となった。その後も長期化した地震風評の影響と雨天が続き、また 8 月の猛暑や特に 9 月の台風や大雨によるシルバーウィークの入園者激減、下半期に入っても降雪による「ふゆはなび」の延期など、最後まで悪天候に悩まされ、年間入園者数は昨年度と比べ大幅に落ち込んだ。

#### (2) 成果

##### ① 「平尾台自然の郷」の入園者数 270,309 人（平成 27 年度 314,664 人）

入園者数は、上期 182,064 人（前年度 210,384 人）、下半期 88,245 人（前年度 104,280 人）となった。比較的天候に恵まれた平成 27 年度に比べ、前述のとおり、悪天候により、上半期、下半期ともに前年度を下回った。

##### ② 「平尾台自然観察センター」の入館者数 41,858 人（平成 27 年度 42,713 人）

入園者数は、上期 26,126 人（前年度 27,175 人）、下半期 15,732 人（前年度 15,538 人）となった。地震、長雨、猛暑などの影響を受けたが、ペルセウス座流星群鑑賞会、クリーン大作戦が好天気の下で実施でき、入館者減は最小限にとどまった。

##### ③ 売上・利益

売上高は、215,107 千円、経常利益は、3,467 千円となった。法人税等控除後の当期純利益は、2,123 千円（平成 27 年度：3,192 千円）となった。

## 2 主な事業実施状況

### (1) 「平尾台自然の郷」

#### ① P R活動

- ・ゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィークに焦点を当て、出発地調査や入園者年齢層などの基本情報に基づき、地域や年齢層を考慮し、駅貼りポスターや地域情報誌、W e b等に効果的なイベント告知を行った。
- ・秋にはイベント告知と連動した「岩の動物園に遊びに行こう！」キャンペーンを実施した。
- ・市内外の保育園・幼稚園（700 施設）に対して、平尾台自然の郷・平尾台自然観察センターの紹介ダイレクトメールを送付し、個人・団体での来園P Rを行った。
- ・マスコミを活用したパブリシティ広報に力を入れ、各メディアに情報提供を行ったほか、テレビなどのマスコミ取材には積極的に対応した。
- ・インバウンドについては、海外ブロガーやT V局の取材を積極的に受け入れることにより、個人利用の増加に繋げた。
- ・立ち寄り型の国内団体客の増加に対しては、短時間のガイドサービス対応を実施した。
- ・園外でのP R活動として、「わくわく課外授業」、「まつりみなみ」、「陶磁器フェスタ」へ出店した。

#### ② 各種事業の実施（新規分）

- ・青龍王（大理石洞熟成麦焼酎）の販売促進策として、北九州市ふるさと納税の返礼品及び北九州市観光情報サイトのお土産品リストに登録したほか、在庫数が少なくなったことから新たに芋焼酎を加え、仕込みを行った。
- ・レストランについては、セルフサービス方式の導入、メニューの見直しにより、スピーディかつリーズナブルな価格で食事を提供することができた。また、キッチンカーの導入を大幅に増やし、入園者の多様なニーズに応えた。
- ・北九州ドローン推進協会のドローンイベントへの協力やいのちのたび博物館とのガイドツアー共催など、各団体等と連携したイベントを実施した。
- ・平尾台ボトムハンティングやしいたけほだ木作り体験など、新たなイベント、体験教室を行った。

#### ③ 各種事業の実施（継続分）

- ・ゴールデンウィーク期間、夏休みの土日・お盆は18時まで開園時間を延長した。
- ・夏季の暑さ対策として「せせらぎ」の運用、「幼児用簡易プール」などを設置した。
- ・平尾台の特色を活かしたイベントであるガイドツアー（ケイビング、カルストジャングル冒険ツアー）を実施した。本年度はガイドツアーに長崎市小学校の修学旅行生が参加した。また、地元小学生を対象に「平尾台ケイビング学習」を実施した。
- ・そば打ち教室や陶工房等、各種教室や講座を実施した。また、全日本素人そば打ち名人大会九州予選会、平尾台素人そば打ち段位認定会を食工房で開催した。
- ・芋ほり、ブルーベリー摘み取り等の菜園・果樹園を活用したイベントを行った。
- ・ペルセウス座流星群観測会（自然観察センターと共催）、初日の出見学会など天体観測イベントを実施した。
- ・平尾台観光祭、新米まつり、東谷フェスティバル、平尾台ふゆはなび、平尾台野焼き等の地域と協働したイベントを実施した。
- ・クロスカントリー、シクロクロス、ゾンビマラソン等のスポーツイベントを共催した。

- ・高原ピクニックコンサート、フォルクローレコンサート等の音楽イベントを受け入れた。
- ・小学校環境体験科授業（環境アクティブラーニング）、中学校野球部対抗駅伝大会等の学校教育と連携・協力したイベントを行った。
- ・臨時駐車場を活用したイベントとして、林道ラリー、コンパクトカーミーティング等を誘致した。

(2) 「福岡県平尾台自然観察センター」

- ・平成28年度が指定管理受託の最終年度となるので、福岡県に対して次期の指定管理者指定の申請を行い、審査の結果、指定管理者に決定した。（指定期間 平成29年度～平成33年度 5年間）
- ・新規イベントとして、昨今の登山ブームを捉えた周防台展望登山、塔ヶ峰絶景登山等、各種の登山イベントを実施した。
- ・平尾台散策道整備、外来植物駆除、野草調査、草刈り、クリーン大作戦などのボランティア活動を行い、平尾台の景観維持、山野草保護に努めた。
- ・野外イベントとして、平尾台ガイド散歩、鍾乳洞探検（ケイビング）、九州自然歩道ウォーキング、貫山登山、野鳥観察会、野草観察会、初夏の虫観察会、きのこと観察会、コウモリ観察会、不動坂ハイキングなどを実施した。
- ・屋内イベントとして、アートフラワー講座、野草写真展、きのこと写真展、ネイチャーフォー写真展、夏休み工作教室、カルスト文化祭、凧作り、松ぼっくりツリー作り、ミニ門松作りなどを行った。

### Ⅲ 平成 28 年度決算

#### 1 貸借対照表 (総括表)

平成 29 年 3 月 31 日現在 (単位：円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	477,130,170	流 動 負 債	14,630,582
現 金 預 金	454,673,292	買 掛 金	1,057,333
売 掛 金	14,545,820	未 払 金	2,423,729
商 品	7,288,213	未 払 費 用	5,933,903
原 材 料	401,875	未 払 法 人 税 等	1,446,800
貯 蔵 品	166,170	未 払 消 費 税 等	1,879,100
前 払 費 用		預 り 金	378,119
未 収 税 金	54,800	賞 与 引 当 金	1,511,598
固 定 資 産	55,124,249	負 債 の 部 合 計	14,630,582
(有形固定資産)	(54,833,049)	純資産の部	
建 物	1,243,304	科 目	金 額
構 築 物	734,153	資 本 金	364,800,000
車 両 運 搬 具	119,916	資 本 剰 余 金	73,837,619
器 具 備 品	1,019,418	その他資本剰余金	73,837,619
土 地	51,716,258	資本金及び資本準備	73,837,619
(無形固定資産)	(291,200)	金減少差益	
電 話 加 入 権	291,200	利 益 剰 余 金	78,986,218
(投資その他の資産)	(0)	繰越利益剰余金	78,986,218
敷 金	0	株 主 資 本 合 計	517,623,837
繰 延 資 産	0	純 資 産 の 部 合 計	517,623,837
開 業 費	0		
資 産 合 計	532,254,419	負 債 及 び 純 資 産 合 計	532,254,419

## 2 損益計算書（総括表）

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日（単位：円）

科 目		金 額	
経 常 損 益 の 部	(営業損益の部)		
	営業収益		215,106,857
	売上高	215,106,857	
	営業費用		212,397,504
	売上原価	184,265,532	
	販売費及び一般管理費	28,131,972	
	営業利益		2,709,353
	(営業外損益の部)		
	営業外収益		758,132
	受取利息	177,494	
その他の営業外収益	580,638		
営業外費用		40	
開業費償却	0		
その他の営業外費用	40		
経常利益		3,467,445	
益 特 別 部 損	特別利益		60,000
	固定資産売却益	60,000	
税引前当期純利益			3,527,445
法人税、住民税及び事業税			1,404,575
当期純利益			2,122,870

## IV 平成 29 年度事業計画

### 1 「平尾台自然の郷」

#### ① 「冒険コース」の設置・運営

平尾台の自然を活かした冒険コースを設置し、小学校四年生の環境アクティブラーニング授業に活用するとともに一般の入園者に対しても新たな自然体験イベントゾーンとして提供する。

#### ② 市、各団体等との連携によるイベントの実施

北九州ドローン推進協議会が3月に実施したドローンイベントに続いて新たに開催するライセンス講習会への協力やいのちのたび博物館とのガイドツアー共催、市環境局からのイベント委託（子供エコライフ）など、平尾台における特色あるイベントを市、各団体等と連携して行う。

#### ③ 魅力あるハイキングイベントの導入

新たなガイドツアーイベントとして、初級登山教室、平尾台ミステリーツアー、岩の美術館めぐり、平尾台ピークハンティング、トリュフ探索隊などを導入するほか、3月に実施した平尾台ボトムハンティングも継続して実施する。

④ 新規体験教室の実施

新たな体験教室として、「シール絵付け体験」を行なうほか、3月に実施して好評だった「しいたけほだ木作り体験」も継続実施するなど、随時、魅力的な体験教室を増やしていく。

⑤ 天体観察イベントの充実

晴天時には数多くの参加者が見込まれる天体観測イベントの回数を増やすほか、流星群の電波観測の導入や天体望遠鏡、星座観測ソフトなどの備品整備を行い、内容の充実を図る。

⑥ 無料休憩所の多目的活用

無料休憩所内に大型スクリーンを設置し、平尾台の自然が学べるDVDやドローンで撮影した低空撮影映像や全天球カメラによるVR映像を上映し、荒天時でも入園者が楽しめる場所を提供する。また、キッズコーナーの遊具も増設する。

⑦ ダイレクトメールによるPRの強化

団体利用の多い幼稚園・保育園、福祉施設へのダイレクトメール送付によるPR回数を増やし、団体のみならず個人利用の増加へと繋げる。

2 「平尾台自然観察センター」

① 新規イベントの実施

「平尾台自然の郷」と共催で夏休み期間中に、主に児童を対象に次のイベントを実施する。

・平尾台ふしぎ発見隊 ～キッズレンジャー～

平尾台のフィールド全体を教室とした観察センター方式の林間学校を行う。初年度は日帰りで行い、将来的には宿泊方式も目指す。

・夜の虫観察会

ライトアップにより集めた虫の観察会を行い、親子で夜の平尾台の自然を堪能してもらおう。

② 「平尾台野草図鑑」の作成

入館者の要望が強い平尾台に特化し、またフィールドに携行できるコンパクトな野草図鑑を作成し、平尾台自然観察センター及び平尾台自然の郷で販売する。好評であれば虫や菌類の図鑑作成も検討する。

③ 登山者の安全対策への取り組み

昨今、平尾台が登山ガイドブックやTV等に紹介されたことにより、軽装による登山者の事故が増加している。自然公園管理者の福岡県と協力し、安全対策に取り組む。

## V 平成 29 年度予算

### 1 予定損益計算書

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日 (単位：千円)

勘定科目	平成 29 年度予算
(営業損益の部)	
売 上 高	227,015
売 上 原 価	195,663
一 般 管 理 費	29,615
営 業 利 益	1,737
(営業外損益の部)	
営 業 外 収 益	530
受 取 利 息	140
そ の 他 営 業 外 利 益	390
営 業 外 費 用	0
営 業 外 利 益	530
税 引 前 当 期 利 益	2,267
法人税・住民税及び事業税	1,835
当 期 利 益	432

## VI 役員名簿

平成 29 年 7 月 1 日現在

役 職 名	氏 名	備 考
代 表 取 締 役	柏 木 康 彦	社長
取 締 役	西 田 幸 生	北九州市 企画調整局長
〃	加 茂 野 秀 一	北九州市 産業経済局長
〃	横 矢 順 二	北九州市 建設局長
〃	齊 藤 哲 郎	三菱マテリアル(株) 九州工場事務部長
〃	根 石 紀 雄	(株)ユアーズ 代表取締役社長
〃	安 藤 俊 作	住友大阪セメント(株) 小倉事業所副所長
監 査 役	吉 野 浩 実	(株)西日本シティ銀行 北九州総本部長
〃	糸 永 卓 見	(株)太平設計 代表取締役社長